

『適切な末梢血幹細胞採取法の確立及びその効率的な普及による非血縁者間末梢血幹細胞移植の適切な提供体制構築と、それに伴う移植成績向上に資する研究』

分担課題名： 非血縁者間末梢血幹細胞移植における慢性 GVHD の対策と治療体制の整備

研究分担者 藤 重夫 大阪国際がんセンター 血液内科 副部長

研究要旨

非血縁者間末梢血幹細胞移植（uPBSCT）が本邦でも増加しており、さらにその中でも HLA 不適合 uPBSCT も施行可能な状況となっている。uPBSCT の施行例が増加することは急性および慢性 GVHD の増加につながる可能性があり、その対策を講じることは治療成績の向上の為にも重要である。近年 GVHD に対する治療薬の開発が進んでおり、GVHD の中でも高リスクの症例に対してそういった新規薬剤の有効性が高いのかどうかの評価が必要であるが、それ以前の基盤となるデータが必要である。

我々は日本造血細胞移植学会データベース（TRUMP）のデータを用いて、これまでに急性 GVHD 発症後の予後に影響を与える因子に関する研究を進めてきた。今年度は慢性 GVHD 発症後の予後に影響を与える因子に関する研究を行った。

Extensive 慢性 GVHD 発症後の予後に移植源（骨髄、末梢血幹細胞、臍帯血）は有意な影響はなかった。ただ、血縁者間移植のサブグループ解析では HLA 不適合が2座以上の際に全生存率が不良であることが示された。非血縁者間移植においては HLA 不適合の影響は示されなかった。

A. 研究目的

非血縁者間末梢血幹細胞移植（uPBSCT）が増加傾向にあり、さらにHLA不適合uPBSCTも施行可能となっている。しかしuPBSCTの施行数からするとまだまだ十分選択されているとは言い難い。

本邦においてuPBSCTが選択されにくい一つの理由としてGVHDの発症に関して危惧されている点がある。その対応策を検討するに当たり、今回慢性GVHD発症後の予後が移植源やHLA不適合度に応じて異なるのか否かを明らかにすることを目的に新規の研究を行った。

B. 研究方法

日本造血細胞移植学会データベース（TRUMP）のデータを用いて、extensiveの慢性GVHD発症後の予後に影響を与える因子に関して検討を行った。

<倫理面への配慮>

大阪国際がんセンターの倫理審査委員会において承認を得た。

C. 研究結果

Extensive 慢性 GVHD 発症後の予後に移植源（骨髄、

末梢血幹細胞、臍帯血）は有意な影響はなかった。ただ、血縁者間移植のサブグループ解析では HLA 不適合が2座以上の際に全生存率が不良であることが示された。非血縁者間移植においては HLA 不適合の影響は示されなかった。

D. 考察

今回の解析ではextensive 慢性GVHD発症後の予後に關して血縁者間移植においてはHLA不適合が2座以上の際に予後不良であることが示された。非血縁者間移植においてはHLA不適合の影響は示されなかったが、uPBSCTにおいては統計解析の為にはさらなる症例数の蓄積が必要である。

E. 結論

血縁者間移植においては HLA 不適合が慢性 GVHD 発症後の全生存率に影響する可能性が示唆された。

F. 健康危険情報

特になし。

G. 研究発表

【1】論文発表

なし

【2】学会発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況（予定も含む）

【1】特許取得

なし

【2】実用新案登録

なし

【3】その他

なし